

## 廻国雑記

どうこう

作者:道興(1430?-1501?)

成立:文明19年(1487)



## 解題

## Keyword

- 聖護院
- 宗祇
- 関岡野洲良
- 「廻国雑記評註」

室町中期、京都聖護院(しょうごいん)の僧・道興が著した北陸・関東・奥州の紀行。和文体の文章と400首以上の和歌・俳諧歌・発句・漢詩から成る。記述は全体に簡略であるが、当時の地名が豊富に収録されているところに特色がある。

## ■ 成立

道興が文明18年(1486)6月から1年近い長途の旅行中に書きとめていた文章や詩歌を、文明19年(長享元年)の帰洛後にまとめたものとみられる。

## ■ 作者

道興は法名。関白・近衛房嗣の子。生年は不詳、ただし古記録の没年をもとに永享2年(1430)と推定する説もある。幼くして仏門に入り、天台宗を学ぶ。長じて聖護院の門跡(もんぜき)となり、寛正6年(1465)には准后(じゅごう)に叙せられた。門跡とは寺格の高い特定の寺院で住職を勤める皇族や摂関家子弟のことであり、その寺院をも指す。准后は准三后(じゅさんごう)の略で、太皇太后・皇太后・皇后の三后(三宮)に准ずる地位である(准三宮)。高い身分にあり室町幕府とも関係の深かった道興はまた、修験道本山の聖護院門跡として何度も廻国巡礼を行い、和歌・連歌・漢詩文に通じた風雅の人でもあった。文亀元年(1501)72歳の入滅と伝えられる。

## ■ 内容

文明18年、60歳に近い道興は6月16日に京都を立ち、近江から北陸路を下り、7月下旬三国峠を越えて関東に

入った。9月初めに房総半島から三浦三崎に渡り、鎌倉に着くが、ここで記述が突然日光山、筑波山参詣に飛ぶ。その後、江戸から陸路鎌倉を再訪したのは10月上旬である。神奈川県域では、鶴岡八幡宮、鎌倉五山、金沢称名寺を見て、藤沢遊行寺、大磯、小田原、箱根と西に進んだ。伊豆・駿河を回って足柄峠から再度相模に入り、大山寺、日向薬師等に足跡をしるしている。このあと道興は武蔵・甲斐を回り、関東を北上し奥州路に入る。遠く松島まで足を伸ばし、帰途名取川(仙台市)のほとりで紀行は終わる。ここまで20か国の旅である。帰路の記録はないが、他の史料によれば道興は文明19年5月19日、京都に帰還した。

## ■ 諸本

原本や古写本は伝わらず、群書類従本など江戸時代の版本やその写本が現存する。版本のなかには『宗祇廻国記』などの書名で、連歌師・宗祇を著者とするものもあるが、江戸後期に関岡野洲良(せきおか・やすら)は初めて本格的な注釈書『廻国雑記評註』を著し、宗祇著者説を誤りであるとした。



### 史料本文を読む

#### <版本>

- 『宗祇回国雑記』 [K99/12]

※上中下3巻の合冊。江戸時代の刊行とみられるが、上巻にかなりの落丁がある

#### <翻刻本>

- ◆ 「廻国雑記」(『群書類従』第18輯 紀行部 巻337) [K08/17/1-18]

#### <注釈本>

- 『廻国雑記評註』関岡野洲良著 勉誠社 1985 (勉誠社文庫130)

[915.4/25] ※影印本。原本は文政8年(1825)刊の版本。

- 『廻国雑記の研究』高橋良雄著 武蔵野書院 1987 (索引あり) [915.4/27]

※p107~224:新註篇(本文と語釈、詩歌索引、地名索引)



### 史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆ 萩原龍夫「道興准後の生涯と信仰」(『駿台史学』(49) 駿台史学会 1980)

[Z205/507]

- 『廻国雑記の研究』高橋良雄著 武蔵野書院 1987 [915.4/27]

※p7~105:研究篇(『廻国雑記』の旅、作者と諸本、文芸的意義、地理的研究)

- 『廻国雑記:旅と歌』栗原仲道編 名著出版 2006 [K99/73]